

提出日：2012 年 1 月 17 日

共感性、アサーティブネスと攻撃の置き換え傾向との関連

The relations between empathy, assertiveness and displaced aggression

臨床心理学研究科 臨床心理学専攻 学籍番号 1000-100717 西澤好美

指導教員 小澤 真教授

【問題と目的】

近年、家庭内暴力や、路上や駅などの公共の場で突然見ず知らずの他人を殺傷する事件がメディアに取り上げられ問題になっている。

個人が挑発事象を経験したときに、挑発の源泉ではない他の対象に表出する攻撃は、置き換えられた攻撃(displaced aggression)と定義される(Dollard, Doob, Miller, Mowrer, & Sears, 1939; Hovland & Sears, 1940)。また、誘発されて表出する置き換えられた攻撃のことを TDA (triggered displaced aggression) という (Dollard, 1938)。攻撃の置き換え傾向が高い個人は、事前に何らかの挑発事象を経験していると、挑発事象によって生じた怒りを反すうし、報復を企図し、攻撃を置き換える傾向が高いため、些細な誘発事象を敵意的に解釈し、家族などの挑発の源泉ではない対象に攻撃を表出すると考えられる(淡野, 2008)。

他者の体験する感情を見た側に、それと一致した(苦痛に対して、苦痛など)、あるいはそれに対応した感情的反応(苦痛に対して、かわいそう、心配するなど)が起こることを共感という(登張, 2003)。これまでの研究では攻撃性の抑制要因として共感性の役割が示されており、攻撃の置き換え傾向に関しても同様に、共感性が抑制要因として機能することが考えられる。

アサーション、アサーティブネスは「自分の考え、欲求、気持ちなどを率直に、正直に、その場の状況に合った適切な方法で述べること」と定義される。そこには「自分も相手も大切にコミュニケーション」といった意味が含まれている(平木, 2008)。先行研究において、一般的な攻撃性に関してはアサーティブネスとの関連が示されている。しかし、直接的攻撃と置き換えられた攻撃との差異性に言及されているものは少ない。

本研究では、共感性と攻撃の置き換え傾向との関連を調査し、抑制要因となるかも検討したい。また、攻撃の置き換え傾向とアサーティブネスとの関連も検討し、これらを目的

とする。

〈仮説〉

- ①共感性が低い人ほど、置き換えられた攻撃行動を示す傾向にあるであろう。共感性と攻撃の置き換え傾向は負の相関を示すであろう。
- ②アサーティブな考え方や表現ができない人ほど、置き換えられた攻撃行動を示す傾向にあるであろう。アサーティブネスと攻撃の置き換え傾向は負の相関を示すであろう。

【方法】

2011年6月～7月に、東京都内の大学に在籍する大学生212名を対象として質問紙調査を実施した。授業時間の一部を利用して集団で実施し、その場で記入・無記名の形で回収した。そのうちデータに不備があったものを除いて、最終的に196名（男性47名、平均年齢 20.66 ± 2.82 歳、女性149名、平均年齢 20.70 ± 4.87 歳）を分析の対象とした。

〈質問紙〉

- ① 攻撃の置き換え傾向尺度（DAQ 日本語版）（淡野，2008）；31項目，7件法，「怒りの反すう」「報復の企図」「攻撃の置き換え」の3つの下位尺度。
- ② 日本版 Buss-Perry 攻撃性質問紙（BAQ）（安藤明人・坂井明子・嶋田洋徳・島井哲志・曾我祥子・大芦治・宇津木成介・山崎勝之，1999）；24項目，5件法，「短気」「敵意」「身体的攻撃」「言語的攻撃」の4つの下位尺度。
- ③ 多次元共感性尺度（IRI-J）（明田，1999）；28項目，5件法，「視点取得」「想像力」「共感的関心」「個人的苦痛」の4つの下位尺度。
- ④ サーティブ・マインド・スケール（AMS）（伊藤，1998）；20項目，4件法，「自己表現に対する肯定的態度」「他者尊重」「合理的信念」「率直さへの確信」の4つの下位尺度。

【結果と考察】

DAQ と IRI-J の下位尺度間では、男女とも「個人的苦痛」は DAQ の全ての下位尺度と正の相関が見られた。このことから個人的苦痛が高い者は、攻撃の置き換え傾向が高いと言える。この結果により、共感性と攻撃の置き換え傾向は負の相関を示すという仮説①は一部のみしか支持されなかった。これは、「個人的苦痛」が愛他的なものではなく、自己への感情反応であり自己指向性の強いものであることが影響していると考えられる。

DAQ と AMS の下位尺度間では、男性では、「他者尊重」のみが「攻撃の置き換え」と負の相関が見られ、女性においては、「他者尊重」および「合理的信念」と DAQ の全ての下位尺度間に負の相関が認められた。DAQ 合計尺度においても AMS 合計尺度と有意な負の相関が見られ、このことからアサーティブネスが低い人ほど攻撃の置き換え行動を示すと考えられる。「率直さへの確信」は無相関ではあるが、それ以外の下位尺度が負の相関を示し、正の相関が認められないことから、アサーティブネスと攻撃の置き換え傾向は負の相関を示すであろうという仮説②は支持されたと考えられる。

IRI-J の下位尺度および AMS の下位尺度と DAQ 日本語版の下位尺度との関連について重回帰分析で検討を行ったところ、次のことが明らかになった。男女とも「個人的苦痛」が「怒りの反すう」に正の影響を及ぼしていることが認められた。このことから、他者の苦痛で自己が不快な感情を覚えやすい自己志向的な者が、うまく情動を処理できずに怒りを反すうしてしまうことが示唆された。「報復の企図」においては、女性では、「合理的信念」と「他者尊重」が「報復の企図」に負の影響を与え、「率直さへの確信」が正の影響を及ぼす結果となった。非合理的な考えをもち他者を尊重しない者は、報復の企図という非合理的な認知につながったことが示唆された。男女ともに、「攻撃の置き換え」に対して「他者尊重」が負の影響を、「個人的苦痛」が正の影響を及ぼしている。女性のみ「合理的信念」が「攻撃の置き換え」に負の影響を及ぼしていることが示された。このことから、他者を尊重せず、他者の苦痛を自己の中に取り入れてしまう曖昧さゆえに、自己の怒りも怒りの源泉ではない対象に表出してしまうことが推測される。

IRI-J（低群・高群）と AMS（低群・高群）を独立変数、DAQ 日本語版と日本版 BAQ の各下位尺度を従属変数とした 2×2 の分散分析を行った結果、DAQ 日本語版の下位尺度「怒りの反すう」「報復の企図」「攻撃の置き換え」全てにおいて、AMS の有意な主効果が見られ、AMS 高群よりも AMS 低群の方が有意に得点が高かったことから、アサーティブネスが低い者は、攻撃の置き換え傾向が高いと言えるであろう。

細かく見ると、重回帰分析において、「合理的信念」「他者尊重」が負の影響を及ぼしていることから、非合理的信念や他者を尊重しない認知の部分での変容を促し、かつ行動スキルも獲得できるようなアサーション・プログラムが効果があると考えられる。アサーティブな考え方や表現ができれば、他人とのコミュニケーションにおいてネガティブな感情が生じるのを少なくすることができると予想される。そうすることでネガティブな反すうが抑えられ、報復の企図・攻撃の置き換えも減少すると考えられる。